

山口放送

事業の名称

あの日あの時を正しく知る～未来をつくる中学生の提言～

共同で事業を実施した団体

岩国市立錦中学校

事業概要

テレビ局だけでなく、地域の財産とも言える「ライブラリー映像」に着目。山口県東部・岩国市の山間の中学校に通う中学生8人が2班に分かれ、山口放送に残されたライブラリー映像をきっかけに、ふるさとの過去について調べ、地域の歴史や現状を知る人々を取材。そのうえで、ふるさとの未来について考え、提言としてまとめた。

【活動スケジュール】

●2022年9月12日（月）：第1回授業（ガイダンス）

山口放送に残る過去の映像を視聴。テレビ放送を開始してから63年、山口放送が変わりゆく町の姿や人々の暮らしなど、時代を越えて記録し続けてきたことを学ぶ。

●9月28日（水）：生徒たちが来社し、ライブラリーセンターを見学

検索端末を使って過去の映像を探し、テーマ決めの参考素材を集める。



●9月30日（金）：テーマ決め

「錦班」（錦町出身の生徒4名）→ローカル鉄道「錦川清流線」
「美川班」（美川町出身の生徒4名）→かつて栄えた「鉾山」

●10月4日（火）：中間発表会に向けたまとめ作業

●10月24日（月）：発表練習

アナウンサーによるアドバイスのもと、時間内にわかりやすく伝える練習をした。

●10月29日（土）：中間発表（中学校文化祭）

それぞれのテーマを決めた理由や、今後の取材活動の予定を報告。

●11月4日（金）：取材計画

生徒たち自身が取材のアポを取った。そのうえで、限られた取材時間（3時間）でどの

ように取材すれば効率的か検討した。

●11月17日（木）：取材日

地域の現状や、過去を知る人々を取材（鉾山の元従業員については、生徒自らが休日を利用してリサーチし、アポを取った）。



●2023年1月25日（水）：最終発表会に向けたまとめ作業

●2月3日（金）：最終発表会

ふるさとを今後どのようにしたいか、提言を発表した。発表後、地域の人を交えた座談会を開き、多くの意見をフィードバックしてもらった。



< 提言の内容 >

錦班→「錦川清流線」利用者増を目指す提言

（駅弁に地域の人気飲食店のメニューを盛り込むなど）

美川班→美川町の四季を活かしたイベントの提言

（鉾山跡地を活用したテーマパークを軸とした、ウォーキングコースの提案など）

【活動に協力いただいた方々】

錦川鉄道株式会社／錦川鉄道を育てる会／やましろ商工会／錦町農産加工／道の駅ピュアラインにしき／岩国市役所美川支所／美川ムーバレー／鉾山元作業員の庄司様・山根様

事業の成果

ライブラリー素材をきっかけに、“過去—現在—未来”という視点から地域を見つめ課題と向き合ってもらいたい……そう考えて私たちは活動を始めた。生徒は想像以上に、真剣に取り組んでくれた。自分たちが生まれる何十年も前に記録されたふるさとの映像と丁寧に向き合い、現在と比較することで感じた素直な驚きや疑問を、私たちに示した。そして、ふるさとをどのようにしたいか意見を交わし、提言という形でまとめてくれた。その本気度が学校関係者だけでなく、地域の大人たちを動かした。生徒と大人たちが膝を突き合わせて座り、提言の実現に向けて議論する場が設けられた。生徒に対する地域の期待の大きさを感じ、改めて、子どもも大人もふるさとの未来へ強い思いを持っていることがわかった。

過疎高齢化に歯止めはかからず、生徒たちが取材した鉄道「錦川清流線」は2024年度

までに廃止も含め、今後のあり方が検討されることになっている。今回の活動を通じて改めて、私たちがこれからどう地域の未来と向き合っていくべきかを考えさせられた。地域に入り込み、記録し、残し、伝えるという放送局の役割を再確認するとともに、未来へとつなぐ責任をしっかりと担っていきたい。この活動は一つの区切りを迎えたが、今後も生徒たちが示した提言と向き合い続けたいと考える。

【生徒たちの感想】

- ◆この学習を通じて、地域の皆さんの「錦町を活気のある町にしたい」という思いがとても強いと感じた。
- ◆町を盛り上げたいという気持ちは皆同じということがわかった。事前に用意していた質問を聞き終えたら、話の内容で気になったことを質問する大事さも学べた。人と話すことが苦手だったが、今回の取り組みで少しコミュニケーション力がアップしたと思う。
- ◆自分が知って満足するだけでなく、周囲の人や、後世に伝えてつないでいくことが大切だと改めて感じた。自分も関わっていくという責任を持って提案を伝えなければいけないと学んだ。
- ◆未来のことを考えるために、必要な過去の出来事について映像を見たり取材に行ったりして、未来の町がどうなってほしいのか多くの時間をかけて悩み、発表できた。

【先生の感想】

- ◆活動前は「将来は都会へ出て行きたい」という声が聞こえていたが、活動後は「地域がより好きになった」などの感想が出ていて、地域への関心が高まったように思う。
- ◆今後、山口放送で地域の行事を取材することがあれば、生徒にも取材する側の体験をさせてほしい。行事の企画・運営する立場の人々の思いを、生徒が身をもって知ることができ、地域の皆さんも地元を見つめ直せる機会になると考える。

以 上